

A-29 畑作農家における主婦の栄養・健康調査
日本女大家政 〇門倉芳枝 田中千寿子 野崎幸久

目的 畑作農家の労働は一年を通じてきびしく、特に家事作業も分担する主婦の栄養・健康状態に労働が関係していると思われるので、この点を解明するためにこの調査を行った。

方法 調査地区は埼玉県川越市福原地区。対象は農家の主婦71名。調査日は昭和51年7月23～25日。栄養調査は各農家を戸別訪問し主婦にインタビュー形式で行い、年間平均の食品摂取量を求めた。健康調査は血液検査（血色素、ヘマトクリット値、赤血球数、白血球数、血漿蛋白）、血圧、検便、検尿などを行った。

結果 ① 71名の平均栄養摂取量は、エネルギー2,459 Cal、蛋白質73.4g、肉動蛋23.8g、脂質47.6g、Ca 567mg、鉄16.8mg、ビタミンA 2,022 I.U.、B₁ 1.15mg、B₂ 1.03mg、C 160mgであった。50年栄養調査農家地域の値より糖質、鉄、Aが高く、動物性蛋白質が低い。栄養所要量からみると動蛋比、B₁、B₂が不足している。② 食品群別摂取量では、50年国民栄養調査農家地域の値より有色野菜、その他の野菜、菓子類、豆腐の摂取が多く、魚介類はだいぶ少ない。③ 56名の血液検査の結果、貧血者、貧血要注意者と診断された者12名で出現率23%であった。正常者群の平均摂取エネルギーは2,561 Cal、消費エネルギーは2,669 Calでその差100 Calに対し、貧血者群のそれは2,032 Cal、2,516 Calで約400 Calの差を示している。この地域の主婦は農作業と家事作業で平均13時間を費し、特に貧血者群では農作業時間の長い者が多かった。④ 高血圧と診断された者は9名で16%の出現率であった。高血圧者群の食塩摂取量は正常者群より高かった。⑤ 身体症候ならびに肥満傾向は国民栄養調査とほぼ同じであった。